



福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	災害と子どもの健康問題 - 福島の発展的復興のために
Alternative_Title	Disaster and children's health issues - For the developmental reconstruction of Fukushima
Author(s)	越智 小枝(東京慈恵会医科大学) Ochi, Sae(Jikei Univ. School of Medicine)
Citation	第6回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.101 6th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	セッション：企画セッション
Text Version	Publisher
URL	http://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/135427
Right	© 2017 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第6回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



災害と子どもの健康問題：福島発展的復興のために

越智 小枝

東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 講師

相馬中央病院 内科 非常勤医師

福島第一原発事故の後、福島県内では健康に対する懸念が盛んに議論されることとなった。しかし、健康とは何か、何が健康に影響を及ぼしえるのか、という認識の共有なく議論が行われることにより、原発事故の健康影響に関する情報はいまだ偏ったものに留まっている。

健康とは体質やライフスタイルのみで決定される単純なものではなく、その人を取り巻く社会・経済・自然環境や国際情勢、宗教や倫理観までを含め、様々な因子から直接的・間接的に影響を受け得る複合的かつ動的な状態である。そのような視点で見れば、福島第一原発事故の健康影響は放射能や風評被害のみによりもたらされる訳ではない。大量避難、避難行動、長期避難生活、食への不信による影響、一次産業の停止、失業や非正規雇用者の流入など、二次的な事象の全てが健康へ影響を与え得る。

子どもへの健康影響の問題は、それに加え以下のような要因のため、さらに複雑である。

1. 子どもの健康は大人、とくに親の身体的・精神的健康の影響を強く受けるため、子ども単独の健康影響は稀であること。
2. 子どもの健康影響、特に慢性疾患への影響が数値の上で明らかになるためには数十年という時間を要する場合が多く、現状の多くの健康問題が「ないもの」とされている可能性があること。
3. 子どもは大人よりも疾病率が低いため、子どもの健康問題においては発症確率よりもケース・スタディ（ある症例が1例でも存在したのか否か）が取りざたされることが多く、それが「科学的事実」であるか否かの決着がつかないことが多いこと。

そのような複雑さの中で、子どもに対する健康対策においても下記の問題がある。

1. 政策に子ども自身の意見が反映されることは稀であり、介入の正当性が評価されないこと。
2. 特に子どもにおいては、PTSD（post traumatic stress disorder, 心的外傷後ストレス障害）だけでなくPTG（post traumatic growth, 心的外傷後成長）が存在し得るが、災害についてのポジティブな側面を語ることは、いまだタブー視されていること。
3. 2. と関連し、「炎上」への恐れによりこれらの議論がオープンになされないことで、貴重な教育の機会が失われていること。

災害のもたらした負の側面を社会の糧とし、災害以前よりも良い社会を目指す発展的復興のためには、より幅広くかつ開放的な議論が必要である。